

第 780 回 例 会

30年10月5日

本日のプログラム

- ・ソング 「奉仕の理想」
- ・卓話 米山奨学生 郎 宇 さん
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーデンルーム」
- ・第2回委員長会議 13:40～ 4階「桂の間」

次回(10月12日)のプログラム

- ・ソング 「われら日本ロータリアンの歌」
- ・卓話 皆川 祐一 会員
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーデンルーム」

10月のお誕生日

15日 吉田 正信 会員

16日 安藤 幹雄 名誉会員

10月の創立記念日

1日 中井司法書士行政書士合同事務所 中井 周治 会員

5日 花谷建設(株) 花谷 尚嗣 会員

20日 (株)ブルーオーシャン 笹田 隆志 会員

先週(9月28日)の例会報告

■会長の時間

【映画「ブレス しあわせの呼吸」】

映画「ブレス しあわせの呼吸」を見てきました。この映画は、ポリオに感染した青年のその後の人生をたどった実話に基づくもので、私たちロータリアンがポリオ撲滅を願って活動していることから興味深く、感動してきました。

この映画の主人公であり、ポリオに感染した青年は、ロビン・ガヴェンディッシュと言います。そして、この映画の製作者は、ロビンの息子のジョナサン・ガヴェンディッシュです。

ポリオは、乳幼児の感染が多いと聞いていましたが、成人でも感染することに驚き、感染した場合の影響の大きさに考えを新たにいたしました。

イギリスで従軍後のロビンは、結婚間もない妻と共にケニアに行っていたときにポリオに感染し、首から下が麻痺してしまいます。しかもそのとき、妻は息子のジョナサンを身ごもっており、出産後、赤ちゃんも、人工呼吸器に繋がれた夫と共にイギリスに帰国することとなります。

この映画はこの妻ダイアナとロビンの、自宅療養では2か月と持たなえいと言われながらも病院からだ脱出して自宅で療養するという決断をすることを始めとして数々の療養のための発明も行い、ロビンは64歳まで生きます。ロビンが「死にたい」と言う悲しい場面もありますが、多くの友人とのユーモアある場面もあり、感動だけでなく生きる勇気も感じさせる映画でした。

【来客紹介】 0名

【出席報告】

30年9月28日(第779回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
34名	0名	21名	13名	61.76%

【幹事報告】

〔メールBOXに配布〕

1)第2回(9月)理事会報告

2)クラブの目標 — 四つのテスト(森本SAAからの依頼)

〔回覧資料〕

1)大阪梅田東RCより創立30周年記念誌

ニコニコ箱(9月28日)

秋山 千尋 =また台風24号が近づいているとの事。 21号台風で工場が被害を受け、まだ傷あとが残っているのに心配の連続です。 本日の花谷会員の卓話、頑張ってください。

福島 三雄 =花谷さん、卓話楽しみです。

森本 良嗣 =本日のプログラムを見させて頂いて、卓話テーマ「つばた英子・つばたしゅういちご夫妻について」どんなお話になるのか楽しみです。 花谷さんががんばってください。

大屋 準一 =また台風が来るようですが？ 台風を忘れ、花谷さんの卓話で気持ちよくなる事を期待しています。

斎藤 清貴 =日曜、また台風ですね。被害の無い事を祈ります。花谷さん、卓話よろしく申し上げます。

笹倉 光雄 =季節が変わりました。すぐに10月の秋が来ます。食欲の出る季節が楽しみです。

辻田 知史 =ユニバーサルシティロータリークラブに入会させていただき、美味しいお店にたくさん連れて頂き、本当に楽しくさせて頂いておりましたが、入会当初より4kg太ったことが判明しました。先週のロータリー夜例会の日に店でしゃがんだ時にズボンの尻がさけて大変なことになりました。少し痩せないといけません。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 7000円	今年度合計 4394875円
---------	-------	-----------	----------------

卓話(9月28日)

「津端 修一,英子 ご夫婦について」 花谷 尚嗣 会員

昨年久しぶりに邦画「人生フルーツ」を観ました。津端修一さん90歳、英子さん87歳 風と雑木林と建築家夫婦の物語です。先日亡くなられた樹木希林さんがナレーションを務めるドキュメンタリー映画です。風が吹けば枯葉が落ちる。枯葉が落ちれば土が肥える。土が肥えれば果実が実る。こつこつ。ゆっくり。人生フルーツ この言葉を何度も柔らかく届けて下さった樹木希林さん。ゆっくりとコツコツとお二人の時間を歩んで行く姿に樹木希林さんのナレーションも相まって素晴らしいドキュメンタリーでした。いくつになっても相手のことを最高のガールフレンドと言える修一さんと自分はパン食なのにいつまでも旦那さんのご飯を炊く英子さんは最高の夫婦なのだと思います。この言葉も映画の中で何度もでてくる言葉でした。建築家の修一さんが求めている家のあり方なののでしょうか。「家は、暮らしの宝宝箱でなくてはならない」この言葉はスイス生まれの建築家 ル・コルビュジェの名言です。お二人の暮らしそのものが宝宝箱だったと思います。この映画の中で修一さんは亡くられます。草むしりのあと昼寝をしてそのまま…。そんな風に逝けるのも羨ましく思いました。その後、乱れることなく淡々と受け止める英子さんにも感心しました。亡くなった後も修一さんの好物を生前と変わらず作って遺影に供える愛情の深さに感動しました。

修一さん最後の仕事は、精神病院の設計への助言でした。報酬も礼金もとらず、それでいて相談したことに対してすぐに答えをくれるということは、相談されてから考えたことではなく、常にめざすものについて考えていたということ。周りの人が羨ましがするような場所にするんだというコンセプトを聞いた時感動しました。精神科への偏見がある世の中で周りの人がそこへ入る事を羨ましがするような場所、入院している人が心の再生ができるような場所。すてきななあ！そんな事を考えて下さる事にまた感動しました。

お金、仕事、友人関係、娯楽…多くの欲望と恐怖に支配される日々。そんな中、人生を長い目で見たときに大事なものってなんだっけかな？と考えなおすキッカケになりました。言い方を変えると「人生にとっての豊かさ」とは何か？その答えの一つがこの映画の中にあります。

大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mail: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日

事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459

会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日 12:30~13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか